

**製品名: BIG2 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab07559**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	210kDa

**抗原情報**

遺伝子名	ARFGEF2
別名	ARFGEF2; ARFGEP2; BIG2; Brefeldin A-inhibited guanine nucleotide-exchange protein 2; Brefeldin A-inhibited GEP 2; ADP-ribosylation factor guanine nucleotide-exchange factor 2
遺伝子 ID	10564.0
SwissProt ID	Q9Y6D5
免疫原	抗血清はヒト ARFGEF2 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 1491-1540

**背景**

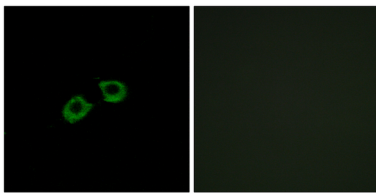
ADP リボシル化因子 (ARF) は細胞内小胞輸送において重要な役割を果たしている。この遺伝子によってコードされるタンパク質

は、結合した GDP を GTP に置換することで ARF の活性化に関与し、ゴルジ体輸送にも関与している。この遺伝子は Sec7 ドメインを有し、グアニンヌクレオチド交換活性とプレフェルジン A 阻害に関与している可能性がある。[RefSeq 提供、2008 年 7 月]疾患：ARFGEF2 の欠陥は、常染色体劣性脳室周囲結節性異所性疾患 2 型 (PVNH2) [MIM:608097]の原因である。PVNH2 は常染色体劣性小頭症を伴う脳室周囲異所性疾患とも呼ばれる。PVNH2 は常染色体劣性疾患であり、小頭症（脳が小さい）、重度の発達遅延、および反復性感染症を特徴とする。PVNH2 には、形態異常や内分泌系の著しい異常など、中枢神経系の外因性異常は認められない。、酵素調節：プレフェルジン A によって阻害される。、機能：ARF1、ARF5、および ARF6 におけるグアニンヌクレオチド交換を促進する。GDP を GTP に置換することにより、ARF1/ARF5/ARF6 の活性化を促進する。、PTM：DNA 損傷時にリン酸化される。おそらく ATM または ATR によるものと思われる。、類似性：SEC7 ドメインを 1 つ含む。、組織特異性：胎盤、肺、心臓、脳、腎臓、膵臓で発現する。、

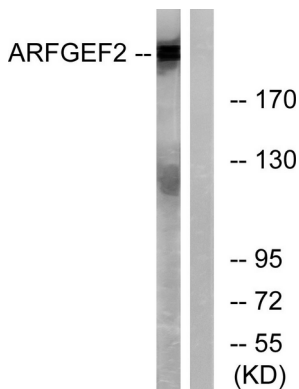
## 研究分野

シグナル伝達

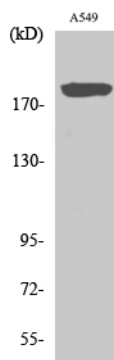
## 画像データ



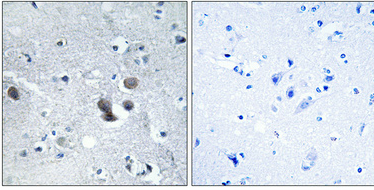
ARFGEF2 抗体を用いた A549 細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした画像です。



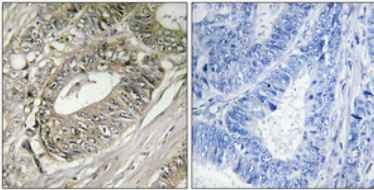
A549 細胞ライセートの ARFGEF2 抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンには合成ペプチドでブロッキングされている。



BIG2 ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析



パラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4℃、一晚) に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。



パラフィン包埋ヒト大腸癌の免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4℃、一晚) に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。